

約10,000年前・約7,000年前

芦野遺跡

(縄文時代早期前葉・後葉)



発掘調査の様子



発掘調査の様子



発見された土器（約7,000年前）



水晶の剥片

芦野遺跡では、縄文時代早期後葉の土器といっしょに「水晶の剥片」が十点発見されています。発掘調査で水晶の剥片が十点も発見されたのは、種子島では初めてのことです。水晶の剥片には、人が手を加えたものが六点ありました。当時の人々が水晶を加工して製品を作っていたことが想像されますが、発掘調査では、水晶の製品は見つかりませんでした。

土器は、縄文時代早期前葉（約10000年前）のものと、縄文時代早期後葉（約7000年前）のものが見つかっていますが、縄文時代早期後葉の土器が主になります。早期前葉の土器と早期後葉の土器が発見された場所には、偏りがみられ、遺跡内で生活域が異なっていたことが考えられます。また種子島に存在しない安山岩や黒曜石で作られた石器もあり、海を越えての交流を表しています。

県道改築工事に伴い、平成十六年・十七年に西之表市教育委員会が発掘調査を行いました。調査の結果、縄文時代早期の貝殻で文様をつけた土器や石器類、蒸焼き調理施設と考えられる「集石」が八基、発見されました。

土器は、縄文時代早期前葉（約10000年前）のものと、縄文時代早期後葉（約7000年前）のものが見つかっていますが、縄文時代早期後葉の土器が主になります。早期前葉の土器と早期後葉の土器が発見された場所には、偏りがみられ、遺跡内で生活域が異なっていたことが考えられます。また種子島に存在しない安山岩や黒曜石で作られた石器もあり、海を越えての交流を表しています。

芦野遺跡は、縄文時代早期後葉の土器といっしょに「水晶の剥片」が十点発見されています。発掘調査で水晶の剥片が十点も発見されたのは、種子島では初めてのことです。水晶の剥片には、人が手を加えたものが六点ありました。当時の人々が水晶を加工して製品を作っていたことが想像されますが、発掘調査では、水晶の製品は見つかりませんでした。

